

「小田原」を詠む。

第二回 おとなりさん

小田原川柳大賞 審査発表

応募総数
390点

応募作品一覧は
ホームページにて
公開中！

第二回 おとなりさん 小田原川柳大賞は『小田原にまつわる言葉を入れて』というテーマで作品を募集しました。応募総数は昨年を大幅に上回り、390点ものご応募をいただきました。そこで、当初予定していました3名の優秀賞、平井書店賞に加え、さらに6名の方に審査に加わっていただき、佳作を選んでいただきました。投稿していただきました、すべての方々に厚く御礼を申し上げます。

大賞 (二作品)

賞金 一万円

副賞 丸う田代「竹の花」



優秀賞 (二作品)

加藤兵太郎商店

「いいちみそ詰合せ」



(2008×6種)



平井書店賞 (二作品)

図書カード 5000円分



佳作 (六作品)

小田原城天守閣へア入場招待券

+

甲冑着付け体験へアご招待券



大賞 編集部選

早雲に似てる球児は16歳

山野柘榴子

東京都江東区 30歳

「雲」という字と「球児」が青空を想像させ、そこに天界の北条早雲の顔が浮かぶ。その下では、部活に励む、早雲似のイガグリ頭の高校球児。脳裏にひろがる、圧倒的なさわやかさと、違和感。シンプルだけど、フックが効いています。いまでも北条氏を慕う市民がとて多い小田原市。この少年は「もしや末裔なのでは」なんてことも思っていました。オリジナルティ溢れる視点で、今までに見たことのない小田原の風景を見せてくれたこの句を、第二回の大賞とします。(おとなりさん編集長 長嶺俊也)

優秀賞 柳家三三賞

富士を背にポーズ百態曾我の梅

中年やまめ

横浜市 69歳

青い空と白い富士を背景に、枝を延ばして咲き誇る梅……。曾我からちよつと離れた城山生まれの僕にも、その一本一本の個性的な枝ぶりが目に浮かびます。動かないはずの樹木に躍動感を与えた一句に座布団……の代わりに三三賞！



柳家三三(やなぎや・さんざ) 1974年小田原生まれ、本名蛭田健司 1993年3月小田原高校卒業後に柳家小三治入門「小多け」1996年5月ニツ目昇進「三三」に。2006年3月真打ち昇進。寄席、ホール落語など全国で精力的に活動。